

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育スクールjump（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 22日		R8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	R7年 12月 23日		R8年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	大きな声を出したり、思いっきり身体を動かすことで発散することができる。 様々な学年の児童や異なる学校の児童との関わりを持つことができる。	手本はできるだけ児童に行なってもらうことで、その子の自信にもつながり、下の学年の子は「やってみようかな」という前向きな気持ちになることが多い。	様々な学年の子が利用できるように利用の調整を行う。
2	屋外でのマナーやルールを経験することで、社会性の習得につながる。 屋外活動を積極的に取り入れることで、様々な体験から道路や危険な虫など、屋外での危険個所なども認識することができるようになる。	交通ルールや、公共施設を使うときのマナーなど声に出しながら意識的に伝えている。 長期休暇は海や川などに出かけ、自然の中で様々な経験を積むことができる。	様々な活動を立案し、安全に活動が行える環境を整える。
3	身体をしっかり動かすことで生活リズムが整う。 学校の体育種目も行っているため。体育の授業に入りやすい。	ドッジボール、鬼ごっこなど思い切り身体を動かすことで発散できるよう活動の提案をしている。 ハードル走やなわとびなど、学校の体育で行う種目を経験しておくことで、自信をもって安心して授業を受けることができるよう、意識してプログラムを組んでいる。	バドミントンやモルックなども取り入れて経験しておくことで、休日に家族や友人とも楽しみながら活動量の増加につなげる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動するには活動場所が狭い。	広い場所へ移転をすれば解決する課題かもしれないが、学校への送迎、職員、送迎車の駐車場等考慮すると、経費的な問題もあり適当な場所がなかなかないのが現状。	公園や体育館を借りて活動し、工夫しながら取り組んでいる。
2	運動という特性上、安全を考慮してスタッフを多く配置しているため、人件費がかかり安定した経営が難しい。	人員配置より多くのスタッフを配置している。 機敏に動ける人材を確保できれば良いが、勤務は夕方が必要になるため人材の確保が難しい。	スタッフのスキルアップ。機敏に動ける人材の確保。
3	定員がいっぱいの為、新規児童の受け入れが難しい。	障がいのある児童が安心して身体を動かせる場所がなく運動不足、不活動が深刻。 「地域のクラブに入ると馴染めるか不安。指導者や他の保護者の理解が薄い」等の声もある。	定員はいっぱいだが、欠席も多く、経営が安定しないことも事業所を増やせない要因になっている。 書類作成も多く、スタッフの仕事は現場の支援のみではないため、AIやデジタル化をすすめ、事務業務の軽減をはかることが必要。